

同窓会会報
第19号

昭和48年12月20日
発行所 茨城県東茨城郡
内原町豊洲5965
鯉洲学園同窓会
印刷所 印刷所
(脚) 双葉製印刷所

就任にあたって

武 藤 三 雄



築くことを通じて園内の農村更生にも貢献したいと考え、創設された許りの鯉洲開拓会社に入社しました。

六月十五日付をもって伝統ある当学園の副学園長に就任という光栄に浴しながら未だ何のお役にも立っていませんが紙上をお借りして一言御挨拶申し上げます。

私は二・二六事件のあった昭和十一年に学校を卒業するとき、当時国策として国民の関心が高かった満洲開拓の仕事に挺身し、彼地に日本農民の理想農村を

幹部並びに集団移民の幹部養成を目的とした施設であったことを知り、何となく因縁のようなものを感じている次第です。

終戦後、南大東島から復員してからは農林省で国内開拓の官費指導に従事しましたが途中で農業試験場に転じ農業経営改善に関する調査研究などの業務をさせていただきました。私が鯉洲学園の存在を知った

のは、その間一語に仕事をしていた仲間が園の卒業生がおり、精力的な活動振りが一躍めだっていたと、死に振りぶり時に抽りよがりどころもありましたが、とことんまでやり抜く根性と人情味豊かなところが共通しており、それが学園教育の特徴かと推察したものです。

また茨城県の仕事で靉田学園長先生ともお目にかかりましたが、村の現場で卒業生と対話する時の心温まる顔様子をうらやましく拝見したことが印象深く思い起されます。

試験場時代に茨城県内を歩き廻り知人も多いという親しみもあって、老後の住居を茨城県内に定めたのですが、家庭事情のこともあって学園内の公舎に住めないことを心苦しく思っております。

ところで、日本農業をとりまく社会経済情勢がめまぐるしく変動する中で農政の方向も二転三転しつ、新しい焦点を求めて苦悩しています。公害問題では農業が被害者である反面加害者でもあるという意味で農業の原点に立帰った反省が求められ、改めて集団的農法とでもいうものの重要性が痛感されます。

そのこととも関連することですが、農業と農村の新しい役割論、つまり①食糧の安定的供給という本来的役割の外に、②自然環境の保全機能、③人間性回復のための健全な地域環境という公共的役割が提言されております。

高生産性農業の確立ということと、新

しい公共的役割を確立させる農業生産や農村生活の仕組みとは、どんな人間関係の下で、どんな技術構造と経済構造をもったものであるのか、その手順はどうあらねばならないかということが気がかかります。人間と土地との結びつきを新しい理念で再編成して、誰れにとっても住みよい地域社会を創造するには、広い視野から農業そのものに限りない愛着と熱情をもった人間性豊かな農民主体の養成こそ総てに優先する国家的事業である苦です。

その意味において学園の先人が築きあげられた教育の基本方針と実績とは真に類例のない立派なものですし社会的に評価されねばならないと痛感します。学園の運営には内部的な努力だけで打撃できない困難な問題もあるようですが秋沢学園長の捨身の心使いによって徐々に光明が期待されそうですし、学園の伝統的精神を新しい情勢の中に生かしてゆくことが私共の務めと心に刻んでいます。

教育という仕事に全く経験のない私には余りに大きな任務という不安もありませんが、皆様からの御支援御鞭撻によって微力を尽したい所存でございますので何分よろしくお願い致します。

第十一回同窓会大会報告

——三十周年記念事業決る——

昭和四十八年十一月三日、鯉淵学園において、全国各地より約八十名の會員の出席を得、来賓として学園長、副学園長をお迎えして第十一回同窓会大会が開催されました。

大会は会長挨拶に始まり、続いて来賓祝辞があり、議長は福丸博房氏（東京九期）、副議長は大竹勝次氏（栃木十四期）書記は飛田元雄氏（茨城二十二期）、小谷浩二氏（学園二十二期）、議事録署名人は渡辺正信氏（茨城七期）、深沢慶吉氏（秋田十五期）、北川元一氏（滋賀二十二期）を選出して議事に入りました。熱心なる討議を経て昭和四十七・四十八年度諸報告を承認、昭和四十九・五十年度事業計画ならびに予算、とくに前年度から検討されて来ましたが、同窓会創立三十周年記念事業「民芸館の設立および同窓会館設立の気運の醸成と検討」の実施を議決して幕を閉じました。そのあらましは次の通りです。

一、昭和四十七・四十八年度経過報告

昭和四十六年十一月三日の第十回大会の決定に基づいて実施致しました両年度の

の事業並びに決算報告は別紙の通りであります。

昭和四十七年度は前年度末に発行された、会員名簿と鯉淵学報の発送業務から始まり、鯉淵学報発行事業の学園への移譲、経営改善計画実施に伴う学園諸施設の配置計画について意見の具申、続いて支部長会議の開催、および学園創立三十周年記念事業の検討を実施して今日に至りました。

また、ヨーロッパ研修旅行を計画致しましたがいろいろな事情で実現出来ず応募された皆さんには少なからず御迷惑をおかけしました。

この間の学園は三年生移行への過渡期でもあり、同窓会においても四十七年度は新入会員がなく、ある種の淋しさを感じました。本年三月には三ヶ年卒の新入会員を迎え、また学生も新しい制度の中で落ち着きを取りもどしその結果、学生に対する外部の評価も高まっていることを耳にします。

反面、同窓生各位の協力にもかかわらず、学園入学者は昭和四十三年をピークに減少の一途をたどり特に、畜産コ

ス、生活栄養料は定員を大きく下回り、園芸コースの定員増で百名前後の学生数を保っています。

会費の納入状況については昭和四十五・四十六年度と異なり、三年制への移行、通信教育制度の廃止で百分の会費納入率を誇る新入会員が少なく、（四十五・四十六年度百十七万円のうち四十四・七万円が新入会員により、四十七・四十八年度のそれは百六万円のうち八万円が新入会員の納入額）心配されましたが会員各位の協力により前年度に近い納入額となりました。とくに宮城、東京、長野、静岡、福井、愛媛、佐賀支部からは一括納入という形をとっていただき、このことが前述の結果となって現われたものと思っております。とはいっても全体から見ると納入率は前年度より低く一層の力添えをお願いして経過報告とします。

二、昭和四十七・四十八年度事業報告

第十回大会の決定に基づき実施してまいりました主な事業は次の通りであります。

支部長会議の概況、鯉淵学園への期待

(2) 支部長会議

第三回支部長会議開催については、開催時期、場所、議題等については各支部からアンケートをとりそれによって、昭和四十七年十一月二・四日に開催することが決定し各支部に連絡致しましたが、事務局の準備不足と会長の申入れから延期して昭和四十八年一月十四・十五日の両日開催致しました。出席者は支部代表二十一名、本部役員十二名の計三十三名、来賓として秋浜学園長の出席を仰ぎ、同窓会活動の進め方や学園の諸問題について熱心な審議が行われました。会議の概況は会報十八号でお知らせした通りです。

(3) 常任委員会の開催

第一回 昭和四十六年十一月三日
事務局長選出

第二回 昭和四十六年十二月

四十七・四十八年度事業の進め方について

第三回

昭和四十七年四月十五日

学園諸施設の配置計画について

第四回 昭和四十七年九月二日

支部長会議について

第五回 昭和四十八年十月二十日

第十一回同窓会大会について

(4) 支部会への役員派遣

茨城支部会 本部役員多数出席

四六、一一、二 鯉淵学園

東京支部会 事務局長出席

神論他
第十七号 昭和四十七年十一月一日
学園諸施設の建設関係記事、鯉淵精
第十八号 昭和四十八年四月一日

- 四六、十二、七 農協ビル
 若手支部会 白田先生出席
 四七、二、五 盛岡市
 福島支部会 事務局長出席
 四七、二、五 いわき市
 若い世代の同窓会 事務局長出席
 四七、三、一九 長野県湯田中
 七期生会 事務局長・砂田常任委員出席
 四七、四、三〇 釜淵市
 静岡支部会 会長出席
 四七、八
 栃木支部会 事務局長出席
 四七、一〇、一五 宇都宮市
 若手支部会 常任委員長出席
 四八、二、二四 若手県連拓会館
 長野支部会 西村常任委員出席
 四八、四、七 戸倉市
 館に茨城県南支部、静岡支部、宮崎支部、山形支部、十五期生会等から出席の要請を受けましたが出席できませんでした。
- (5) 学園教育に対する協力
 ● 学園諸施設の配置計画について
 学園からの要請により、配置計画について、同窓会としての意見を具申致しました。その内容は会報十七号で発表しました通りです。
 ● 学生募集への協力
 会報十六号十七号の発送の際、学生募集関係書類を同封して会員に協力をお願いしました。

三、昭和47・48年度決算報告

1 一般会計

(1) 財産目録

横 要	全 額	内 訳	横 要	全 額	内 訳
資産の部	円		負債の部	円	
現金	355,257		借入金	246,000	66年度基本 金合計より
資産合計	355,257		負債合計	246,000	
			純財産	109,257	

(2) 収支明細表

収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	増○ 減△
会 費	2,600,000円	1,063,432円	△ 936,568円
前 金 利 子	143,000	178,258	○ 35,258
名 簿 代	200,000	270,420	○ 70,420
経 済 学 報 代	480,000	234,400	△ 245,600
その他収入	10,000	77,626	○ 67,626
合 計	2,833,000	1,824,136	△ 1,008,864

支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	増○ 減△
会報発行費	480,000円	238,330円	△ 241,670円
経済学報発行費	240,000	0	△ 240,000
支部長会議費	420,000	197,165	△ 222,835
通 信 費	169,000	106,700	△ 62,300
人 件 費	312,000	172,437	△ 139,563
事 務 費	200,000	110,154	△ 89,846
旅 費	250,000	111,430	△ 138,570
会 議 費	100,000	85,140	△ 14,860
返 済 費	300,000	290,000	△ 10,000
予 備 費	362,000	157,523	△ 204,477
合 計	2,833,000	1,468,879	△ 1,364,121

差引残高 355,257円

2 基本会会計

(1) 財産目録

横 要	全 額	内 訳
資産の部		
現金	293,000円	
預 金	600,000	三菱信託銀行
預 金	700,000	中央信託銀行
貸 付 金	246,000	46年度一般会計
合 計	1,839,000	
負債の部	0	
純 財 産	1,839,000	

(2) 収支明細表

収入の部

横 要	全 額	内 訳
47年度入会金	102,000円	
48年度入会金	101,000	
返 済 金	290,000	
合 計	493,000	

支出の部

横 要	全 額	内 訳
預 金	200,000円	中央信託銀行

昭和47・48年度総収入 493,000
 総支出 200,000
 差引残金 293,000

(6) 経済学報の発行
 この件につきましては、十回大会の決定に基づき、発行事業を学園に移譲し、同窓会としては発行事業に協力、援助する形ですすめてまいりましたが、いまだに第二号の発行をみておりません。

昭和49・50年度予算

科目	金額
前年度繰越金	355,257円
会費	2,200,000
預金利子	182,000
名簿代	700,000
鯉湖学報代	500,000
その他の収入	50,000
合計	3,987,257

科目	金額
会報発行費	550,000円
鯉湖学報発行助成費	300,000
支部長会議費	430,000
名簿発行費	600,000
通信費	295,000
人件費	384,000
事務費	220,000
旅費	370,000
会議費	140,000
30年記念事業費	100,000
返済金	246,000
予備費	352,257
合計	3,987,257

四、昭和四十九・五十年 事業計画ならびに予算

- 1 事業計画
- (1) 同窓会報の発行 四回
第一九号 四十八年十二月一日
第二〇号 四十九年六月一日
第二一号 四十九年十一月一日
第二二号 五十年六月一日
 - (2) 名簿の発行
五十年九月一日 発行予定
 - (3) 鯉湖学報の発行助成
第二号 第三号
 - (4) 支部長会議
第四回支部長会議は四十九年十一月三日と内定するが更に検討する
 - (5) 三十年語念事業の実施
一、民芸館の設立
事業推進の大綱は別紙民芸館設立についてによる。
二、同窓会館設立について
設立気運の醸成と建設計画の検討を更に進め支部長会議において決定する
 - (6) 会費の支部単位による一括納入の促進
 - (7) 学園教育に対する協力援助
学園入学者募集への協力他

五、昭和四十九・五十年 度役員

- 会長 和田 文雄 (東京3)
- 副会長 榎井 昭利 (学園2)
- 兼常任委員長
- 副会長 石井 隆夫 (茨城4)
- 常任委員
- 小泉 真吉 (茨城4)
 - 市川俊次郎 (東京4)
 - 平山 嘉夫 (茨城5)
 - 渡辺 正信 (茨城7)
 - 白土 忠男 (東京9)
 - 梅崎 孝臣 (茨城13)
 - 西村 典夫 (学園4)
 - 砂田 義雄 (# 5)
 - 坪野 敏美 (# 7)
 - 田代 秀子 (# 7)
 - 高橋 隆三 (# 9)
 - 枝川 重二 (# 13)
 - 小野口滋子 (# 22)
 - 山本 平男 (# 24)
 - 大野 順子 (# 27)
 - 小谷 浩二 (# 27)
 - 武内 十郎 (東京4)
 - 張春誠一郎 (茨城5)
 - 及川 博 (茨城9)

七、その他

- (1) 学園本年勤続退職者に対する謝恩について
常任委員会に検討、実施を一任することに決定

学園創立三十年記念 事業計画

- 1 「民芸館の設立」を三十年記念事業としてとりあげることの決定
- (1) 同窓会
第十一回同窓会大会において決定
 - (2) 鯉湖学園
学園としての正式決定はみえていないが、秋浜学園長と和田会長との会談において「民芸館の設立について」意見の一致をみた。近いうちに三十年記念事業としてとりあげられることと思われる。
- 2 三十年記念事業委員会の設置
この事業を円滑に推進するために三十年記念事業委員会を設ける。学園に記念事業委員会が設けられた場合はそれと合流する。(尚、同窓会館の設立についてもこの委員会で検討する。)
- (1) 委員会の構成
委員は五名とする。委員長は会長があたり、他の四名中一名は事務局長、三名は常任委員中より選出する。
 - (2) 委員会の任務
委員会は本事業の実施計画を作成し、常任委員会の承認を得てその運営にあたる。
- 3 民芸館予定建物
「学園諸施設配画計画」通り、図書函室の木造建築を改造修理して民芸館とする。
- 4 民具の収集方法
(1) 支部が責任をもって収集

◎ 地方的特色を示す民具

- イ 衣食住に関するもの三点
- ロ 生業に関するもの三点
- ◎ 各支部とも同一の類の民具

イ 鎌

ロ 鍬

- ハ 履物(藁沓、草履、下駄等)
- ニ 家具(火鉢、煙草盆、枕、自在釣等)

- ホ 調理用具(鍋、鍋敷、桶、摺子木等)

(2) 委員会による収集

体系的な収集計画により、個人、同窓会会員に対し直接、間接の収集を行う。

イ 歴史の変遷を示すもの

- 衣食住に関するもの……………点
- 生業に関するもの……………"
- 通信・運搬に関するもの……………"
- 団体生活に関するもの……………"
- 儀礼に関するもの……………"
- 信仰、行事に関するもの……………"

以下同じ

ロ 時代的特色を示すもの

- ハ 地域的特色を示すもの
- ニ 生活階層の特色を示すもの
- ホ 職能の様相を示すもの

(3) 収集に要する諸経費

- イ 民具は寄贈をお願いする。
- ロ 輸送経費は学園をお願いする。
- ハ その他の諸経費は同窓会負担とする。

5 事業の期間

- 第一期 昭和四十九・五十年
- 第二期 昭和五十一年・五十二年

民具の収集

民具の保存

6 民具の保存(保守管理)

民具の保存場所

- (1) 図書館

現状で展示可能なもの

- (2) 旧基礎実験室

民具の保守管理

学園が責任をもって保守管理にあたる。

大会終了後、懇親会に先立ち秋浜学園長の古希を祝う会が開られました。和田会長より就任以来、並々ならぬ御努力に対する感謝と今後も益々元気で学園のためにとお願いをこめた祝辞があり、大会出席者により記念品と花束が贈られ、学園長よりお礼の言葉をいただき、初代会長小口芳昭氏の音頭で乾杯、懇親会に移りました。

翌十一月四日、九時半頃より二十三期二十五期生を中心とする卒業生と学生との交歓会が開かれ、学園における学習活動の在り方について少なからず教訓を学生に対しあたえていたようです。尚、大会と時を前後して、十八期、二十五期生会が友部、学園を会場として開られました。

「短信」

現在、県農政部長官技師課に籍を置き鹿児島大学農学部農業経営教室で改良普及員大学留学研修中です。

鹿児島 19期 溝口 道寛

佐賀県東松浦郡関係では四期幸佐賀中央会勤務の小林康則氏を筆頭に年二回の同窓会を開き、融和に活動しています。九州では早生みかんの集荷で多忙な毎日です。

佐賀 22期 古竹 信行

四十八年七月一日付の県人事移動により専門技術員から所沢農業改良普及所長に転動しました。

埼玉 2期 新井 徳治

います。ソ連の印象は一言、ボリショイ(広大)です。

香川 27期 菊川 政子

富岡地区では今月末からコンニャクの堀取り作業が忙がしく、値段も四十五K一万四千円程度になる様子です。

群馬 26期 巖坂 秀幸

現在、当牧場の飼養頭数は搾乳牛十四頭、和牛四十五頭、乳用雄肥育牛二十五頭の計八十四頭、酪農と肥育の二面がなばっています。

岐阜 15期 江崎 紀夫

学園の近くに僅かな宅地を所有していますので、来春山小屋程度の住宅を造る予定です。現在、旭川肥料KK、金印ワサビKKの技術顧問をしております。

北海道 通教 矢作 武雄

コロンボ計画によりタイ園チエンマイ試験場に勤務しております。

秋田 国分善治郎

今年の夏は香川、福井県など十一の県が行っている「訪ソ青年の船」の団員になりました。二週間ソ連を訪問しました。私の行ったのはソ連農業と福祉を学ぶモスクワ・ピヤチゴルスクコースでしたが充分な成果をあげることが出来ませんでした。しかし、勉強にはなったと思っ

緊迫した飼料事情に想う

藤田千春

世界的穀物需給のひっ迫から飼料原料は高騰を続け、今年に入ってから一月、三月、九月の三回にわたって、配合飼料価格が大巾に引上げられ、総体的には屯当り約一万八千円を上廻る値上げが実施され、反面畜産物価格は常に不安定な経過をたどっている。我が国の畜産はピンチに追い込まれている。

大豆の国内消費の約九〇%、配合飼料の半原料たるトウモロコシの約七〇%、マイロの約六〇%をアメリカに依存している我が国の畜産にとっては、この飼料価格の暴騰と品不足のダブルパンチは、致命的な痛手で、アメリカの出方一つで死命を制されると言っても過言でない。

飼料原料の輸入先多元化工作は、政府や全農、民間大手商社が、それぞれのベースにおいて進めているようであるが、カナダやブラジルの大豆、大豆粕、ECの農産物、ペルーの魚粉、インドネシアのトウモロコシ等の輸出禁止や規制は、いづれも輸入多元化の障害となっているようである。

養鶏、養豚のように、生産費の約七〇〜五〇%が飼料費で、この大部分を海外か

らの輸入に依存している我が国の畜産にとっては、正に存亡にもかかわる重大問題であり、国際分業論を基調に、家畜飼料の原料である穀物類の七〇%を外国に依存してきた畜産振興政策は、大きな誤りであったことを反省し、決意を新にしなければならぬと思う。

農業基本法農政以来十三年たったが、この間をふりかえって見ると、畜産物価格は常に安く不安定であり、国内の穀類飼料の自給生産対策は殆んど見るべきものがない現状である。これでは国民食糧の安定確保という次元で、真剣に農畜産物の長期安定供給を志向していたとは言いがたい。

畜産物の安定供給の多くは、畜産農家の自己犠牲的努力の中で達成されてきたものが多い、にもかかわらず今回の畜産危機に対して、政府にその対策実現に確固たる熱意が見られないことは、誠に遺憾なことである。

政府が長期的な対策として、来年度から麦や大豆に少額の奨励金を出しても、農家の生産意欲を助長して来年度の収穫以降に飼料高騰を冷やす効果が、期待出来

るかどうかは疑問である。

今こそ国内飼料自給対策について、思い切った生産体制の整備拡充を真剣に考えなければならぬことが痛感される。

麦作、大豆作など飼料作物の生産奨励を本気ですすめるのであれば、生産奨励金のほかに、国内飼料作物（穀類）を一定量高値で買上げ、安い価格で飼料として払下げるような、二重価格制度を新設する位の熱意を示してもらいたいものである。

一方畜産農家は、必要とする飼料確保と、生産物価格の引上げ等に対する基本的な対策については、もっとも強く国に要請する構えが必要であり、それとともに飼料事情をもっと厳しく考えて、対処しなければならぬと思う。

飼料の高騰は、とりもなおさず供給不足にあるわけであるから、価格を引下げさせるためには、供給を増加させなければならぬのであるが、海外依存の飼料原料は前述の事情の通り、供給の増加は仲々望めそうにないので、需要をこのままにしておいて、一時的の政府払下げ飼料に頼ったり、融資の金利補助を願ってだけいたのでは、有効な局面打開にはならない。

養鶏について考えれば、全国の養鶏家が閉結して規模拡大を調整し、駄鶏淘汰を一層きびしくして五%の淘汰を実行することにし、ブロイラーにおいても餌付羽数の五%減と管理技術の一層の向上に

努めれば、両部門合せると全国的には約五十一万屯の需要減を図ることが出来る」と計算されている。

しかもこのことは単に需要減のみならず、生産物の調整にも直結して、鶏卵、鶏肉の価格アップにはね返って来ることになるであろう。

次に養豚について考えれば、昨今養豚飼料といえば、配合飼料にまわっているような考え方が常識となっているが、ついで十数年前迄は、養豚飼料は、いもと糠類が主体であった。

我が国の豚の飼養形態から見ても、多頭化が進んだといっても、肥育豚において全国飼養頭数の概ね四〇%は、一〇〇頭未満の経営規模の農家によって飼育されている現状からすれば、配合飼料を主体におくとしても、自給飼料を或る程度配合することを工夫して見る必要がある。

殊に種豚の生産者が、市販の配合飼料のみにかたよることは、優れた種豚の造成の上からも問題のあることであり、育成豚、成豚、妊娠豚、種雄豚等その状態に応じて、自給飼料を含めて適正な自家配合をするように、考え直して見る必要がある。

乳牛や肉牛についても、その基盤整備はもとよりもっと粗飼料の生産確保のため、それらの利用拡大によって、濃厚飼料の節約について工夫する必要がある。ともあれ飼料原料の輸入の確保と開発輸入、飼料備蓄、或は国内自給飼料生産

対策等政府に対し要請すべきものは強く要請し、生産者自身の自らの創意工夫によって実行すべきものは即刻実施し、こ

の苦境打開を積極的に行なうべきではないでしょうか。

支部だより

近先生を囲んで 一夜だんらん

岩手県支部

近先生が、九月二十七日、二十九日の日程で、学生四名（福田浩一郎・安下陸大・高田芳憲・柏原直子）とともに、来盛された。この機会にと、高橋由一事務局長（二十二期）の呼びかけで、佐藤隆会長（二期）ほか多数の同窓生が相集い、盛岡市内「直利庵」にて「酒」と、「わんこそば」を囲み、一夜だんらんした。

佐藤会長の歓迎の辞、近先生の「自分は……」にはじまる御挨拶、次いで、自己紹介。杯がすすむほどに、武藤副学園長差し入れのお酒もまわり、一層のにぎやかさ。お互いの近況を知らせあい、健

張で働いていることを喜びあったところである。注目をひいたのは、近先生のオツム。時々灯火に反射するのも、鯉洲の年輪を想わせた。

学生達は、二十七日九時東北農試到着、施設・農場を見学、午後、杉本文午氏、（五期）の案内で洪民に啄木を訪ね、さらに、八幡平につづく前森山麓の「前森山農場」（酪農）へと向った。学生達は、前森山農場の人達と、開拓の苦労話、大規模酪農の問題点、集団生活のあり方などにつき、一夜語りあかしたようである。翌二十八日は、東北農試のマイクパス——前東北農試場長武藤副学園長の

おかげに乗り、関正治（四期）・杉本文午（五期）の案内で、若い研究員数名も参加して、岩手県南水田地帯を南下、和賀機械化センター、「志和方式」（複合経営）で有名な志和農協を訪ねた。

和賀では、門屋三郎業務部長から、センターの利用・運営の実態と問題点―兼業化による耕作農民の、不在と休耕・転作―、志和では、熊谷久組合長直々に、志和方式の生いたちと構想をきいた。いずれも、これからの稲作近代化の具体的あり方について検討された。強行軍と時間不足のため、十分とはいえないが、学生諸君にとっては、よい勉強になったこ

とと思う。二十八日の会合で、代表から研修の成果について立派な報告があり、参加した同窓一同から心からの拍手が送られたことを付記する。

なお、当日の出席者は、以下の通りである。

- ② 佐藤隆 ④ 関正治 ⑤ 杉本文午
- ⑬ 大坪京二 ⑭ 芳賀止美 高橋貞雄
- ⑮ 菊池雄基 ⑯ 熊谷豊彦
- ⑰ 高橋由一 ⑱ 斎藤卓二 本間果
- ⑳ 細川隆造 ㉑ 吉田正英 高橋由春
- ㉒ 千葉照雄 細川幸子 兼平雅夫
- ㉓ 武田猛見

（関 正治）

「短信」

現在、富士宮市にある県立高等農業学園でがんばっています。三十年前の自分と同じ年代の生徒をあずかって教育に当たっています。難しい仕事だと痛感する毎日ですが、生徒が成長する様子が何よりたのしみです。

静岡 2期 米倉 豊治

本年五月、京都府を退職し、三十五年に亘る農業指導と普及事業に終止符をうつ。晴耕雨読のいとまは更がない。息子

の経営する自動車販売修理業を手伝いながら、かつて農業で試みた協同化が零細な企業の中に育たないかと考えている。

令六十にして益々壮健、来年の三十年記念事業に期待をかけている。

京都 通教 吉岡健次郎

元気で普及員として頑張っております。勤務先は埼玉東深谷市上野台三六七深谷農業改良普及所です。現在、植木の指導に専念しており、特に埼玉の花園村に七年がかりで植木の産地をつくり、益々発展しております。同窓会の皆様もついでがありましたらお立寄り下さい。

群馬 7期 関口 義明

福岡地方も朝夕のつきり冷込みがきびしくなっています。私も元気に農業(果樹園)に励んでいます。私のみかんも今年は大変いいようです。十月中は日本一の高値(大牟田上内みかん)で取り引き

事務局だより

支部への連絡について

第三回支部長会議の申し合せにより、会報発行の合同を縫って、同窓会の動きや鯉湖学園の様子を簡単な印刷物に託し各支部にお知らせしなければならぬ責任があつたにもかかわらず、約束したのみで実現できませんでした。

事務局の現体制から考えると今後も行けないのではないかとこの心配が先に立ちますが、幸、学園職員の中にも協力しようという方がおられますので四十九・五十年度は是非「同窓会情報」(仮称)を作成して約束を果したいと思えます。

各支部におかれましても、支部総会の様子や会員の活躍状況などについてお知らせ下さい。

会費納入について

されていますので昨年のような安値にはならないと思います。

福岡 20期 石橋 正吾

新年度に入りましたので四十九・五十年代会費一、〇〇〇円を納入して下さい。今年度は事業計画の中に支部単位による一括納入の促進をとり入れ、大会で決議されました。また去る一月の支部長会議でも出来る限り一括納入を実施しようと申し合せました。

大会の審議の過程では会費納入率二十七・五%が、問題になり、提案の中には「四十七・四十八年度の実績は大会出席者が責任をもって徴収しよう」、各支部に会費徴収者を置き領収書発行の権限を与えたらどうか、などがあり、熱のこもった論議が交わされました。

最近、一括納入が増加しつつあり、また振替による納入率も上昇して来ております。この機運を尚、層盛りあげ、今年度事業が、完遂できますように御協力下さい。

領収証の発行について

皆さんから送金が御座りますと最低三回はそれぞれ帳簿をめくり、氏名、支部期、金額等の記入をします。その上、領収証の発行となりますと専従者のいない事務局では、時期によって処理しきれず

大変御迷惑をおかけしております。

そこでお願いですが、振替送金の場合郵便局の取扱スタンプをもって領収証に替え、事務局の領収証発行は現金、一括納入(数人の納入含)についてののみ実施したいと思っておりますので御了承下さい。但し、領収証を希望される場合は通信欄にその旨を記入して下さい。

名簿発行について

昭和四十六年九月発行したものが最も新しく、その後は発行、いたしておりません。最近も時々送付希望がございりますが在庫が全くなく、要望に答えられない状況です。また、住所変更が非常に多く不便を感じておられることと想像します。

先の常任委員会で五十九年九月発行予定と決め大会にはかりましたが、それまで待つては同窓会活動に支障をきたすような気がいたします。事務局では発行の準備を急ぎ早い機会に発行したいと思っております。

内容は今迄通り、県別、期別の形をとり、新しく電話番号と期別の索引をのせるつもりです。

先の大会開催通知は前述の含みもあって往復葉書を利用致しました。返信いたさない方も多数あり残念です。今後の連絡には電話番号も必ず記入して下さい。

配布については前回同様実費負担とな

ります。物価高騰の折から印刷会社も毎月先の印刷経費の見積りは、困難だと云っておりますので、役員会にかけ、発行を正式決定してから、お知らせいたします。

事務局長再任にあたって

高橋 隆 二二

去る十一月四日の役員会において、今期も引続き事務局長を引受けることになりました。

前任期の二年間は、不馴れということあり、ある程度失敗しても、水に流してもいただけ、事業量も少いと云うことで何とか切り抜けてまいりました。今後は、解放されると思っておった矢先、やれ、一時は同窓会のことと手につかない状態でした。これではいかんと余報に取り組み、ようやく発行のはこびとなりました。

今年度は創立三十周年記念事業が大会で決定し、事務局としても大変な年であることは間違いなく、加えて名簿の発行鯉湖学園の助成等を考えると私の責任も重大であると覚悟を決めております。

二年間のいたらない点を反省し、事務処理にも工夫をこらし、皆様の御要望に答えるべく、努力していきたいと思っておりますので、御支援の程切にお願い申し上げます。